

3 内閣総理大臣賞受賞者の業績概要

農産部門

出品財 経営（水稲、小麦他）

有限会社 すがきゅうファーム菅久
すがわら ひさたか
(代表 菅原 久耕 氏)

いわて ぐんしずくいしちょう
岩手県岩手郡雫石町



1. 地域の概要

雫石町は、北東北地方の拠点都市である盛岡市の西方、岩手県中西部に位置している。北部から西部へ連なる1,400～2,000m級火山群からなる奥羽山系の山脈に囲まれた盆地を形成しており、主産業は、農業と観光である。その中で農業は町の純生産額の約1割を占めており、畜産、米、野菜の3つが主力となっている。

2. 受賞者の取組の経過と経営の現況

法人代表の菅原久耕氏は、雛鳥の育成を行う会社員から転職し、昭和56年に就農した。平成11年に雇用の導入、家計と経営の分離や対外的信用の向上等を図るために、「有限会社ファーム菅久」を設立。

平成25年産の作付面積は水稲37ha、小麦20ha等に加え、全作業受託面積は63haに及び、合計で130haの経営面積となっている。

3. 受賞者の特色

(1) 徹底した土づくり

『米づくりの基本は「土づくり」である』という基本理念を掲げ、5年に1回のローテーションで土壌分析を実施し、その結果に応じ、独自配合の施肥を行うなど地力の向上に努めている。また、堆肥は牛ふんに稲わら、もみ殻を加え、1次発酵させた後、米ぬか、鶏ふん、なたね粕、有用微生物等を添加し、熟成させた自社オリジナルのものを施用している。

(2) 多収・低コストの米づくり

『いい米づくりは健苗から』との考えの下、太くて丈夫な苗を育成した上で坪当たり45株の超疎植栽培を実施しており、さらに株当たり植え付け本数は1～2本である。そして、穂数を確保するため、1葉目など下位の葉からの分けつも活かすよう、丁寧な代かきでほ場を均平にした上で、根の部分のみを植え付けるという浅植えを実施している。土作りの効果もあり、全てのほ場で5割以上の減農薬・減化学肥料栽培に取り組むなど、生産コストの大幅な低減を実現しながら10a当たりの収量は毎年、県平均の約1.2倍を誇っている。

4. 普及性と今後の発展方向

担い手不足により、農地の出し手が増加することが予想されるが、本法人は今後も農地の受け手として更なる規模拡大を行いつつ、加工品の販路拡大を図る等、意欲的な発展を行っていく方針である。